

マルサ工業株式会社

本社 栃木県宇都宮市砂田町424-20
創立 2007年5月18日
社員数 2025年6月30日現在 59名
事業概要 足場、土木、解体、電気工事、産業
廃棄物の収集及び運搬事業など



筑波総研株式会社
企画調査部・コンサルティング部
本部長 高田 徹

マルサ工業株式会社
代表取締役
峰下 久司 氏

株式会社筑波銀行
宇都宮支店長 元尾 隆也

百年続く企業を目指して

峰下社長が自身で事業(有限会社トラストエンタープライズ)を始められた経緯と、当時の事業内容についてお聞かせください。また、マルサ工業株式会社創立の経緯についてお聞かせください。

これまでの事業を振り返りますと、わたしが21歳のときにそれまでの経験、身につけた技術をもとに、足場架設工事の個人事業主として独立したのがスタートでした。事業は軌道に乗り、売上規模も大きくなっていきました。そうしたなか、お客様や社会からの信頼・信用をより高めたいとの思いから、法人化して2005年7月に有限会社トラストエンタープライズを設立しました。

トラストエンタープライズ設立時には、足場架設工事を行う建設業のほか、飲食店でのアルバイト経験を活かし、飲食業も営んでいました。また、知人の自動車販売会社を営業として手伝った経験をもとに、中古車販売・板金修理も始めました。このようにさまざまな事業を展開することができたのは、わたしは人と関わるのが好きで、公私を問わず多くの知人、友人がいたからだと思います。

一方、その頃の建設業の部門は、足場架設工事のみを業務として行っていたため、時期により繁閑の差があり業務量が安定しないことが課題となっていました。そこで、自社で工事を受注できるよう、建設業許可を取得し、土木、建築、解体工事などに業務を拡大していきました。

そして、トラストエンタープライズは、設立から2年後には従業員が約70人に増え、飲食店も10店舗を運営するまでになりました。しかし、事業規模の拡大に伴い、わたしの目が行き届かないといった弊害も顕在化してきました。そこで、経営資源の選択と集中を図りました。

まずは、建設業に特化した会社を2007年5月に設立しました。それがマルサ工業株式会社です。



事業のスタートは足場架設工事

足場架設工事の個人事業主から事業をスタート



会社設立の経緯について語る峰下社長

次に、トラストエンタープライズで運営していた飲食業からは、店舗を店長に譲る形で撤退しました。その結果、トラストエンタープライズの事業は中古車販売と板金修理、運送業の3つとなりました。現在では運送事業を主力事業とし、栃木県内や近県、東京都内のスーパーなどをお客様に、冷凍トラックによる365日24時間稼働型配送に取り組んでいます。

困ったときに頼りになる会社を目指して

マルサ工業さんでは、総合建設業者として、土木、建築、足場架設工事、解体工事、産業廃棄物の収集・運搬など幅広い業務を公共・民間問わず受注されており、さらに太陽光発電システム等の電気工事も自社で施工されているとのことですが、設立から18年という期間のなかで、どのように業務を拡大されてきたのでしょうか。

わたし自身、個人事業主の時代からマルサ工業の設立に至るまで、建設業の現場でさまざまな業務を行い、知識や技術を身につけてきました。そうした経験を通して、多岐にわたる建設業の業務に対応できる会社をつくりたいと思うようになりました。



個人向けの案件も増えています



解体工事現場

そこで会社設立時に掲げた目標は、お客様が困ったときに対応できる会社、「マルサさんに電話すれば何とかしてくれる」と言ってもらえるような会社をつくることでした。そして徐々に対応できる業務分野を増やし、それぞれの専門部署も設置してきました。

複数の業務を自社で行うことで、受注先の増加が図れました。加えて、協力会社との関係性を強化し繁忙期でも対応可能な体制を整えたことで、大型案件の受注・施工も可能となりました。

そして何より、常に丁寧な施工、アフターフォローを心がけ、お客様から信頼を得られたことが業務拡大につながったのだと思います。ここ数年は口コミやリピート、紹介案件が増加し、B to C (Business to Consumer : 個人消費者向け) 案件が非常に増えました。

土木工事に注力し 持続的な成長を目指す

幅広い業務のなかで、特に御社の収益の柱となっている業務、今後の見通しのなかで力を入れていく業務は何でしょうか。また、公共と民間の割合はどのくらいでしょうか。

当社の収益の柱は土木、建築、解体工事ですが、今後は特に土木工事に注力したいと考えています。その大きな理由としては、今年1月に八潮市で起きた下水道管の破損による道路陥没事故など、各地で上下水道管などの社会インフラの老朽化による被害が相次いでいることが挙げられます。

こうした社会インフラの改修・整備にかかわる土木

工事は、社会貢献性が高く、災害対策・防災への貢献も期待できます。社会インフラの老朽化が進むなかで、今後はさらに工事需要が高まることが予想され、持続的な成長が見込める分野だと考えています。

一方、上下水道の敷設や改修は特殊な分野であるため、施工するためには特定の資格や許可が必要です。そのため施工業者が不足しており、自治体は本来必要な工事を発注できないという状況になっています。

現在の当社の受注工事は、宇都宮市など公共分野が約2割、民間分野が約8割となっていますが、土木工事に对应できる資格や技術の取得支援により人材を確保し、公共工事の受注を増やしていきたいと考えています。

キャリアアップ支援と ワークライフバランスの推進

幅広い業務を行うためにはさまざまな資格の有資格者が求められると思いますが、人材育成はどのようにされているのでしょうか。また、あらゆる業界で人手が不足するなかで、人材の確保や定着の方策などについてもお聞かせください。

人材育成と確保・定着は、当社だけではなく、多くの企業にとって共通の大きな課題であると認識しています。

人材育成に関しては、会社全額負担で資格取得を支援するほか、実践的なOJT (On-the-Job Training) と業務に必要な知識・スキルを高めるための研修・勉強の機会としてOff-JT (Off-the-Job Training) を実施しています。そして社員ごとのキャリアパスの明確化



今後は成長が見込まれる土木工事に注力していきます



労働災害ゼロに向けた「安全教育」を実施

を図ることで、業務へのモチベーションの向上につなげています。特に資格取得については、当社の業務を遂行するうえで必須の資格も多く、入社と同時に取得をサポートする場合があります。

人材の確保に関してですが、人手不足は建設業界にとって深刻な問題の一つです。建設業は、危険な作業や過酷な労働環境で体力的・精神的に厳しい仕事というイメージが先行しており、新卒を含め若者の新規採用も難しい現状です。そうしたなか、当社では協力会社とタッグを組んで業務にあたることで人手不足を軽減したり、外国人材を活用したりといった対策を講じています。

人材の定着に関しては、魅力的な職場環境の整備とワークライフバランスの推進に取り組んでいます。社員の心身の健康も重視しており、健康増進施策を講じることで、人材の定着に加えて生産性の向上を目指しています。

こうした取り組みを通して、社員一人ひとりの専門性を高め、長期にわたり活躍できる企業を目指すことが、人手不足解消の糸口になると考えています。

外国人技能実習生の業務と生活を手厚くサポート

外国人材を活用されているということですが、御社ではどのような取り組みをされているのでしょうか。

当社では現在、インドネシアからの技能実習生を積極的に受け入れています。去年5月15日には、2期生3人が入社したところです。

外国人技能実習生の受け入れにあたっては、現地の送り出し機関ならびに国内の受け入れ監理団体と密に連携しています。また、実習生の皆さんに有意義な経験を積んでもらえるように、全社員で社内環境の整備、技能実習計画に基づく指導、そして生活面のサポートに取り組んでいます。

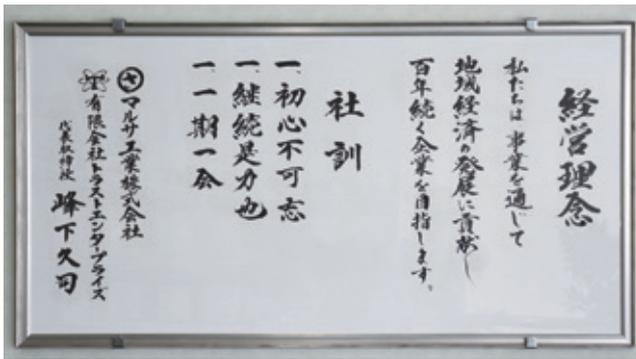
なかでも技術指導においては、OJTを実施することで、実習生へ具体的な作業手順、安全衛生、品質管理といった実践的な指導を行っています。

また、インドネシアも暑い国ですが、日本の夏はそれ以上に過酷だといわれています。そこで、実習生の熱中症対策は最優先事項と位置づけ、作業環境や休憩、水分補給など、健康維持のためのあらゆる対策を徹底しています。

今後は実習生が長期休暇期間に帰国する際に、航空券を会社で費用負担するなどの支援も検討しています。



インドネシアからの技能実習生（2期生）



3つの社訓に込めた想い

3つの社訓として「初心不可忘(しょしんわするべからず)」「継続是力也(けいぞくはちからなり)」「一期一会(いちごいちえ)」を選ばれていますが、どのような想いが込められているのでしょうか。

1つ目の「初心不可忘」は、一般的には「習い始めの頃の謙虚で真剣な気持ち、志を忘れてはならない」という意味で使用されます。しかし、本来の意味は、「初心者の頃の未熟さ、つたなさを忘れるな」となるそうです。この言葉はさらに「若いときの初心」「現在あるいはその時々での初心」、そして「老後の初心」の3つに分けられます。そこで、過去、現在、将来においても仕事に対して常に「未熟」な状態であると自覚し、それを忘れず仕事に臨んでもらいたいと、その想いをこの言葉に込めました。

わたし自身、若い頃からさまざまな仕事を経験するなかで、先輩方から仕事や人生について多くのことを教えてもらいました。「駆け出し」の頃に受けたその恩を返したいとの思いから、これまでお付き合いのあった経営者の方には、毎年欠かさずお中元、お歳暮をお渡ししています。人生のどのフェーズにおいても「初心」を忘れずに、受けた恩に報いるようにと社員には常に伝えています。

2つ目の「継続是力也」についてですが、これが一番難しいかもしれません。たとえば仕事を覚えることは簡単ではありません。今日入社して、明日いきなりできるわけでもありません。仕事を覚えるには、一つのことをコツコツと地道にやり続けるしかありません。社員一人ひとりがそれぞれ明確な目標を持ち、それを実現させるために試行錯誤し、仮に達成したとしても自分に課題

を与え続けることが重要と考え、この言葉を示しました。

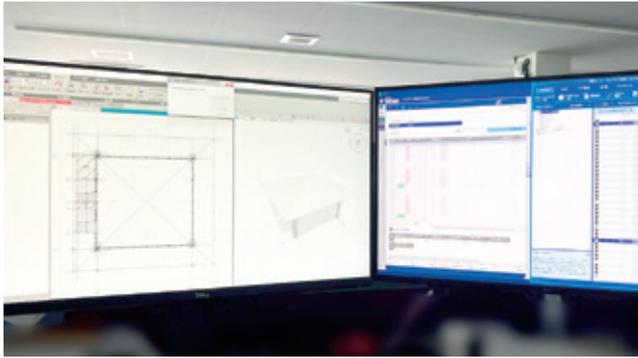
3つ目の「一期一会」には、お客様との出会いは一生に一度のことと考え、誠心誠意接し真剣に臨むことが重要であり、お客様に対しても「これが最後かもしれない」と考え、常に誠意を持って対応してほしいとの想いを込めています。工事現場においても、同じ場所の一つとして存在しません。今日行った施工は二度とやり直すことはできません。規模の大小、内容にかかわらず、着工から完工まで常にベストを尽くし、「安心」「安全」にお客様にお渡すことが最重要と考え、顧客第一主義の精神に基づきこの言葉を示しました。

世界中にこれだけの人がいるなかで、たとえば今回の取材で名刺交換をさせていただいたのも、何かのご縁と考えています。仕事での出会いをきっかけに共に切磋琢磨していく関係を構築したり、プライベートで仲良くなったりする可能性を秘めており、わたしはさまざまな出会いに大変感謝しています。

「百年続く企業」を目指し 4つの取り組み

経営理念を「私たちは、事業を通じて地域経済の発展に貢献し、百年続く企業を目指します。」とされています。御社の事業は現在も未来も必要不可欠なものですが、将来の展望についてお聞かせください。

当社は企業理念に「百年続く企業」を目指すことを掲げています。目標の実現に向け、今後次の4つを柱に取り組みを行っていきます。



情報システム事業部においてDX推進をしています

1つ目は「事業の深化と多角化」です。これまでに培った技術とノウハウを活かし、既存事業のデジタル化・効率化を進め、サービス品質と生産性を高めます。同時に、環境問題対応や少子高齢化社会への貢献など、社会ニーズに応える新事業にも挑戦し、地域貢献を最大化します。

2つ目は「人材への投資と組織づくり」です。「百年続く企業」を支える人材育成のため、技能実習生を含む多様な人材の育成と、日本人社員の資格取得支援、キャリアパスの明確化に注力します。さらにワークライフバランスの推進や公正な評価で「働きがい」を追求し、持続的に成長できる組織を築きます。

3つ目は「テクノロジー活用による革新」です。AIやIoTなどのDX推進で業務を効率化し、従業員の負担を軽減します。また、データ活用で意思決定を高度化し、新たなサービス開発や顧客満足度の向上につなげます。

4つ目は「地域社会との共存共栄」です。地域イベント参加や地元雇用創出、環境保全活動を通じて地域貢献を強化します。また、お客様、取引先、社員などすべてのステークホルダーとの信頼関係を深め、相互の価値向上を目指し、地域と共に持続可能な社会の実現に貢献していきます。



栃木プロレスの試合風景

土木工事のICT化推進と いじめ撲滅への貢献

「百年企業」を目指す取り組みのなかで、事業・地域貢献各分野でご紹介できる事例がありましたら教えてくださいいただけますか。

事業分野では、土木工事のDX推進に関連して、「ICT活用工事(土工)」の導入に向けた準備を進めています。3次元起工測量や3次元設計データ作成、ICT建設機械による施工などを実現し、現場での作業効率や安全性を高めたいと考えています。

地域貢献分野では、栃木県内を拠点に活動するプロレス団体「栃木プロレス」のスポンサーとして協賛しています。わたしも運営会社の取締役として事業に参画しています。

栃木プロレスは、栃木県内の小学校や中学校、高校などを回り、無償で試合を実施しています。その目的の一つには、「いじめ撲滅」のための啓発活動を試合にあわせて行うことがあります。「プロレスラーは背が高く、体を鍛えているが、弱いものいじめはしない」というメッセージを子どもたちに伝えています。また、栃木県警では、犯罪の抑止に向けた広報活動を推進するため、今年の2月に「犯罪撲滅大使」のポストを新設しましたが、その第1号に栃木プロレスが任命されました。現在、「闇バイト」の撲滅に向けた広報活動や地域のパトロールなどを行なっています。

マルサ工業とトラストエンタープライズでは、毎年クリスマスの時期に県内の児童養護施設を回り、子どもたちにお菓子を配る活動を行っています。子どもたちが大変喜んでくれるので、今後も活動を継続していきたいと考えています。



インタビュー日 2025年5月29日

(聞き手：筑波総研株式会社

企画調査部・コンサルティング部 本部長 高田徹)

取引支店：株式会社筑波銀行 宇都宮支店